

<清澄フィールドキャンプ 実施報告>

2013年8月下旬、関東支部は地質調査の基礎的な訓練を、京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻地質学鉱物学教室地球生物圏史分科の御支援・御指導のもと、東京大学千葉演習林清澄宿泊施設を宿舎として実施しました。

参加者全員がひとつ屋根の下で寝起きしながら、起きてから寝るまで地質調査尽くしです。昼間は現場でみっちり地質調査のイロハをしこまれ、夜はその日歩いたルートに関する説明を聞きながら墨入れの作業です。その日歩いた部分の柱状図作成ができるまでは寝られない(寝かせない)ので、教える側も教わる側も真剣です。宿舎付近は清澄寺と数件の民家がある他は外界から遮断されており(里までは車で15分)、修行という言葉の似合う5泊6日でした。

8月下旬は夏の終わりということもあり、宿舎や現場は山の中なので涼しいことを期待していましたが全くそういうことはなく、全身汗だくになりながらの実習だったのです。しかし、参加者は誰一人としてリタイアすることなく堂々と実習をやりぬきました。その後、10月後半に再度集まって、実習後のまとめ作業(断面作成・ステレオネットの操作訓練)を行い、無事修了証を手渡すことができたのは主催者として大変うれしいことです。参加した学生諸君は今後ひるむことなくフィールド調査にでかけていくことができると確信しております。

開催にあたり、京都大学の山路敦教授、成瀬元准教授、佐藤活志助教など地球生物圏史分科研究室の方々から多大なるご支援を受けました。また、東京大学千葉演習林の方々にも実施にあたりご協力をいただきました。まとめ作業時には日本大学文理学部実験室をお借りできたので大変効率よくすすめられました。以上の方々のご支援で、ほぼ10年ぶりに再開された関東支部主催のフィールドキャンプを成功させることができました。ここに厚く御礼申し上げます。(河村知徳 関東支部幹事)

<参加者の感想>

地質学に興味があり、野外地質調査についても学びたいと思っていました。フィールドを一人で歩けるようになりたいという目標があり、今回の実習への参加を希望しました。

はじめのうちは位置確認や走向傾斜の測定もままならず、ただひたすらついていだけで精一杯でしたが、実習後半になると走向傾斜の測定や地図の見方にも少しずつ慣れてきて、次の露頭を探す余裕もでてきました。先生方がかなり丁寧に導いてくださったものの、自分で歩いて一つ一つ調べて記録していく過程は、案内者の方が案内してくれる巡検とはまた違ったおもしろさがありました。夕食後のまとめ作業も、地図への記載の仕方、柱状図の描き方等、きっちりできるまでご指導くださり勉強になりました。知らないこと、できないことばかりで、自分の勉強不足、力量不足を痛感した6日間でしたが、それと同時に今後やるべき課題も見つかった大変有意義な経験となりました。今後はこの実習で学んだことを実践するとともに、さらに経験を積んでいきたいです。(神谷奈々 日本大学文理学部3年)



関東支部メンバー集合写真(実習最終日の夕方に撮影)

左より神谷(日本大)、飯島(筑波大)、澤部(専修大)、伊藤(関東支部支部長)、秋山(日本大)、河村(関東支部幹事)、加藤(関東支部幹事)